

第38回大会一般講演要旨

生態 (第I会場)

魚礁をつくり、水禽保護の一助とすることについて

影山 藤作 (東京)

千葉県市川市新浜地方の鳥類を保護せんとするには、5号線行徳工区。土木工事設計監理帝都高速度交通営団施行鉄建建設株式会社が現業せり。此の新田干拓工事場は、干潮時には南一帯の海岸地帯は、沿岸浅く露出し、魚族、海藻は上りのため枯死して荒地となる。此露出地には、幅、高、共に1m位のコンクリート製の水槽を20個位造りて、これを海中に沈める時は、干潮時にも水槽内には水を貯蔵して魚卵、昆虫類の死する恐もなく、魚卵は海藻に附着して安全なり。潮満れば、海底となる。この一帯に棲む渡り鳥、定住鳥白サギ類は安全なる生活を得る。海において生活し得るようになれば、造巢、遊園地の附属地が必要となる。これには水田即ち稲田が必要となる。ここ稲田が得難き地においては葦の密生せる河川の水離れしたる、積地を必要とする。市川地区の海辺においては葦の密生地帯残存するもこれは将来住宅地帯あるいは工業地帯となるとすれば、矢張水田地帯を必要とする。

アマミカクレウオ *Encheliopshis vermicularis* MULLER の生態 (続報)

山内 年彦 (花園大)

奄美大島の珊瑚礁の潮風帯にすむニセクロナマコ (*Holothuria loucospilota* (BRANDT)) の腸に寄生 (共生?) するカクレウオについては36, 37の大会で報告した、本年8月三度喜界島にゆき次の結果を得た。カクレウオの寄生率は大約10%, 小数のナマユに2疋カクレウオがいた。3疋いたのを今年1度だけみた。カクレウオ90%位は頭から肛門に入る、少

数のものが尾から肛門にはいる、中には口から、はい入るものもある。頭から肛門にはいるから中で向きをかえるわけである。実験では7疋のカクレウオが腸にはいる。

次に当然の話しであるがニセクロナマコの抽出液で魚に対する毒性をしらべた。イソハゼ (*Eviota afa* (JORDAN & SNYDER)), クモハゼ (*Gobius fuscus* RUPPELL) は早く抽出液内で死ぬが、アマミカクレウオは大体上記の魚に対して5~10倍の抵抗力をもっている。詳しいことは本年の動物学会で発表する。ニセクロナマコの腰内で多少は毒素があるのでそれに対してカクレウオが免疫をもっていることになる。

へびの冬眠場所の発掘

深田 祝 (京都教育大学生物)

1967年2月10日。へびが冬眠していると思われる石垣を発掘調査した。場所は京都市伏見区丹波橋の新高瀬川の堤防の1部で、長さ約3m高さ90cmの石垣である。この石垣は数年前では全長100mあり西日をうけて絶好の冬眠場所であったが、最近ここに工場が建ち、石垣は3mを残すのみとなり、やや利用しにくい状況となっている。ここを発掘し地表から30cm下にトカゲ2匹、ついで30~85cmの深さで石垣面から30~65cm奥に入ったところでヤマカガシ3匹、シマヘビ4匹をみつけた。これらはいずれも前年生れた幼蛇で、1匹ずつ (1例では2匹) 離れて大粒の砂利の間隙に体を半ば伸した形か、巻いた形で冬眠していた。へびの接していた土の温度6.0°~6.7°Cにたいし体温は平均1.7°C高かったがこれはへびが逃げようとして動いたためと考えられる。